令和６年度 全国学力・学習状況調査の結果について

船橋市教育委員会

１　調査の概要

（１）調査の目的

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（２）調査日時

令和６年４月１８日(木)

※新型コロナウイルス感染症による影響により、令和２年度は未実施。令和３年度は１か月遅れの実施。令和６年度は例年通りの４月実施で調査を行った。

（３）調査対象及び参加児童生徒数

・小学校第６学年（５５校　５，３９０名）
・中学校第３学年（２６校　４，７８３名）

（４）教科に関する調査

①小学校　　国語、算数　　②中学校　　国語、数学

※平成２４年度から理科を追加。平成３１年度（令和元年度）から英語を追加。ともに３年に１度程度の実施で、今年度は国語および算数・数学のみ実施。

※平成３１年度（令和元年度）調査より、「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式で実施。

（５）生活習慣や学校環境等に関する調査

①児童生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等の調査
②学校における指導方法に関する取組や、人的・物的な教育条件の整備の状況等の調査

（６）本市の調査結果について

各教科における平均正答率

小学校	国語	算数
船橋市	67	65
千葉県	67	63
全　国	67.7	63.4

中学校	国語	数学
船橋市	58	54
千葉県	57	51
全　国	58.1	52.5

※文部科学省の発表に基づき、全国平均正答率は小数第１位まで、県・市の平均正答率は小数点以下を四捨五入した結果を示す。
※全国は、公立小中学校の平均正答率を示す。

２　教科に関する調査の結果について

（１）学習指導要領の領域（内容）、評価の観点、問題形式別の比較

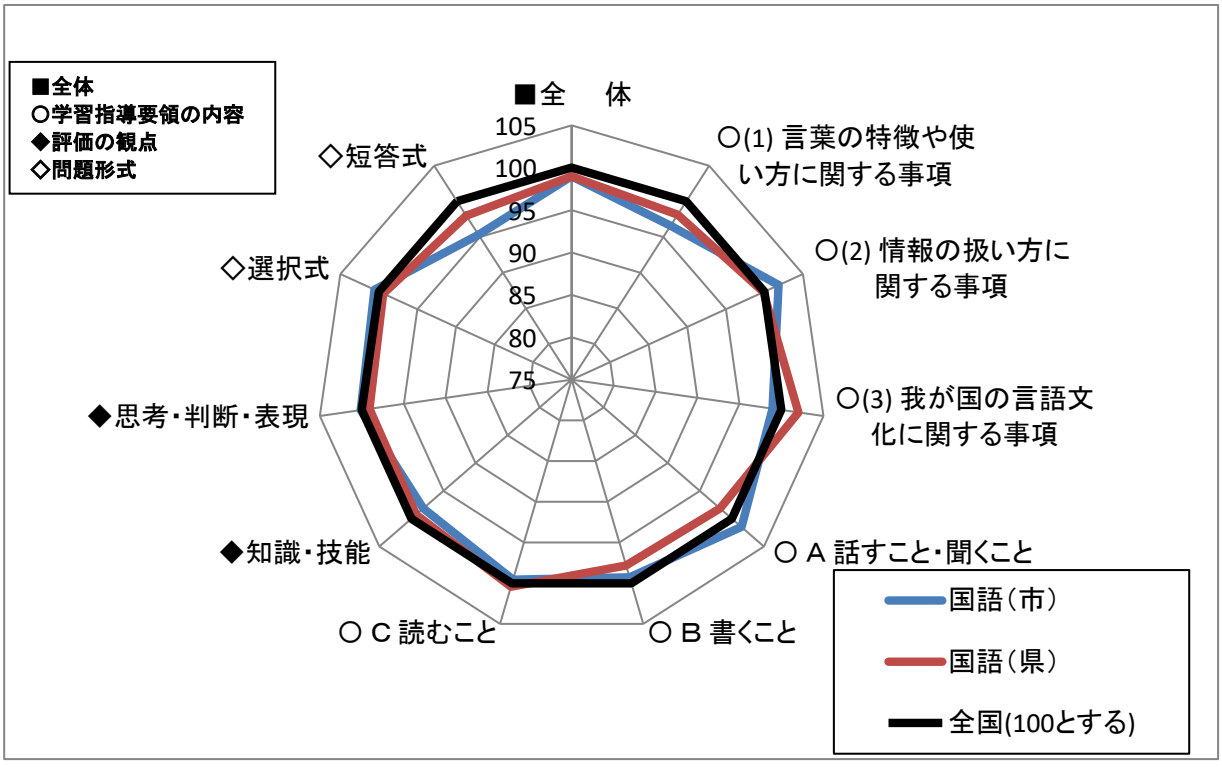
平均正答率の状況について詳細な把握を行うために、学習指導要領の内容、評価の観点、問題形式別に全国及び千葉県と船橋市との比較を行った。

≪小学校≫　国語　　※全国，千葉県，船橋市，共に公立学校

国語				船橋市	千葉県	全国	全国との差
平均正答率（%）	全　体			67	67	67.7	▲ 0.7
	学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	62.2	63.2	64.4	▲ 2.2
			(2) 情報の扱い方に関する事項	88.5	86.8	86.9	1.6
			(3) 我が国の言語文化に関する事項	73.8	76.1	74.6	▲ 0.8
		思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	60.7	58.7	59.8	0.9
			B　書くこと	67.9	66.9	68.4	▲ 0.5
			C　読むこと	70.4	71.0	70.7	▲ 0.3
	評価の観点		知識・技能	68.5	69.3	69.8	▲ 1.3
			思考・判断・表現	66.1	65.4	66.0	0.1
			主体的に学習に取り組む態度				
	問題形式		選択式	70.3	69.5	69.9	0.4
			短答式	56.9	58.5	59.7	▲ 2.8
			記述式	61.5	63.1	64.6	▲ 3.1

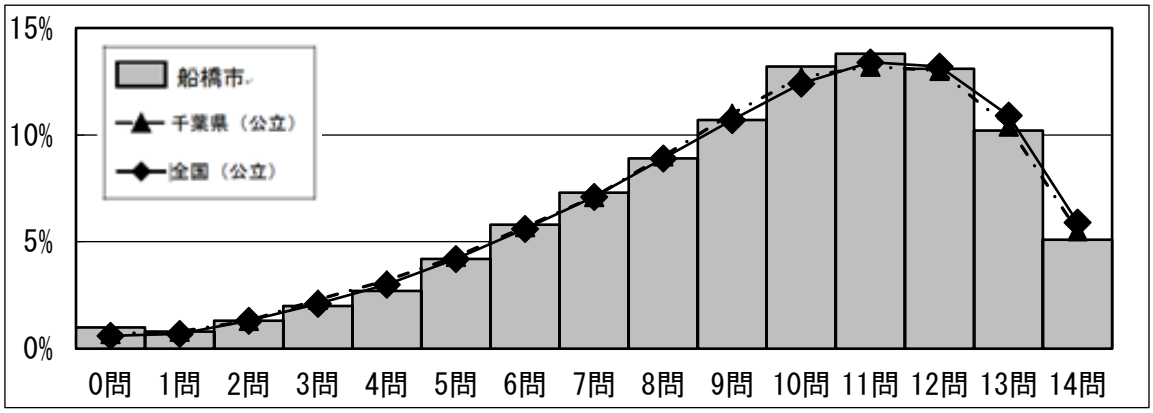
※斜線は該当する設問が無いもの

平均正答率が全国，千葉県共に上回ったもの



※全国を100として船橋市と千葉県の比較を百分率で表したグラフ
※今年度、該当する設問がなかったものについてのグラフは省略。

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)　〔国語〕



傾　向

・全国・県の平均正答率と比べると、「短答式」「記述式」の問題形式において、若干低い結果であった。学習指導要領の内容別では「話すこと・聞くこと」「情報の扱い方に関する事項」に関しては若干高いが、「書くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関しては課題がある。
・無解答率が全国と比べて高く、特に記述式回答と漢字の短答式回答で多かった。
・正答数の分布は、全国・県とほぼ同様の分布を示している。また、最頻値や正答率の散らばりに関する値も、全国・県と同様であり、中央値についても、全国・県の値と同様であった。

課題が見られた主な設問

２三ア「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうか」
＜言葉の特徴や使い方に関する事項＞（正答率　船橋市 39.3 全国 43.4）
２二　「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるか」＜書くこと＞（正答率　船橋市 54.4 全国 56.6）
３一　「文の中における主語と述語との関係を捉えることができるか」
＜言葉の特徴や使い方に関する事項＞（正答率　船橋市 57.3 全国 62.3）

学習指導のポイント

＜文や文章の中で、漢字を正しく使う指導の充実＞

漢字を書くことについては、当該学年の前の学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うようにすることが重要である。第５学年及び第６学年は、漢字による熟語などの語句の使用が一層増加する時期であるため、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにすることが大切である。その際、〔知識及び技能〕⑴言葉の特徴や使い方に関する事項の「話し言葉と書き言葉」「語彙」と関連を図り、指導の効果を高めることが考えられる。

＜目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導の充実＞

事実を客観的に書くとともに、その事実と感想や意見との関係を十分捉えて書くことが重要である。伝えたいことを明確にし、客観的な事実を取り上げることで考えをより深めていくことができるようにすることが大切である。また、内容に注目して、文章全体に一貫性があるかを確かめたり、文末表現に注目して、事実と考えを適切に区別しているか、事実と考えを混同して書いていないかを確かめたりする場面を設定することも大切である。

＜文の中における主語と述語との関係を捉える指導の充実＞

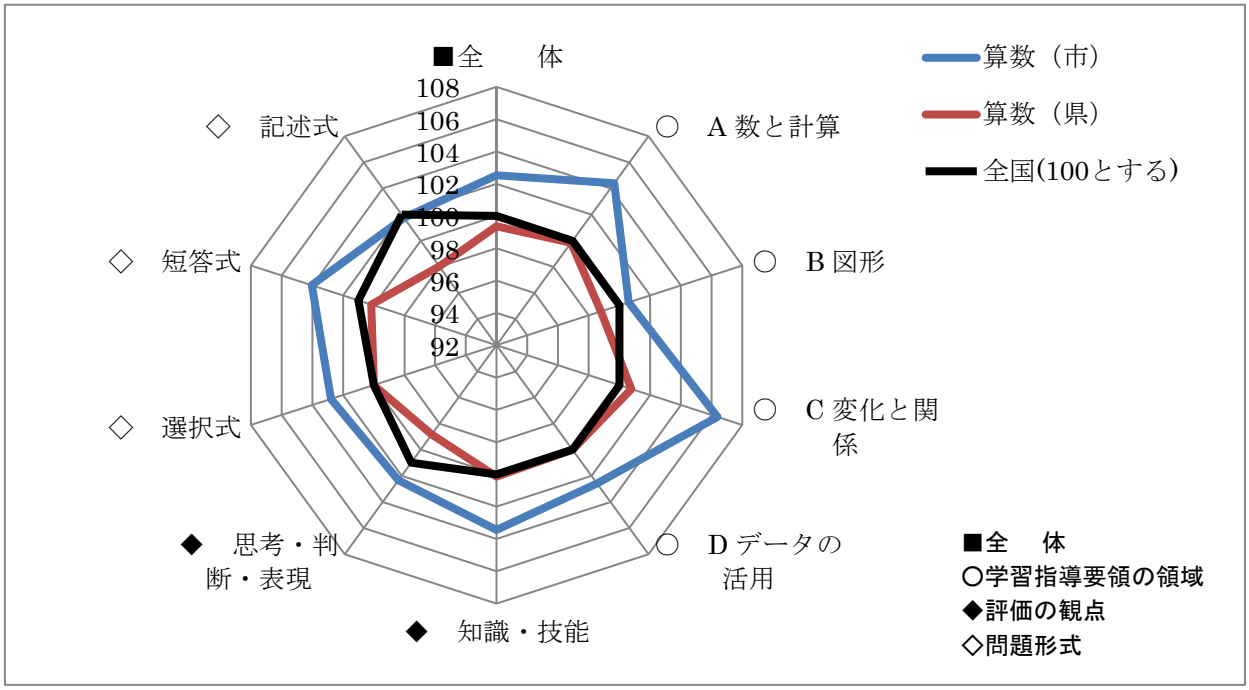
主語と述語との関係について、低学年から繰り返し指導することが大切である。また、〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ｃ読むこと」や「Ｂ書くこと」の指導事項などと関連を図り、日常的に主語が何かを意識して文章を読んだり書いたりすることが重要である。

≪小学校≫　算数　　※全国，千葉県，船橋市，共に公立学校

算　数			船橋市	千葉県	全国	全国との差
平均正答率（%）	全　体		65	63	63.4	1.6
	学習指導要領の領域	A　数と計算	68.9	65.9	66.0	2.9
		B　図形	66.7	65.5	66.3	0.4
		C　測定				
		C　変化と関係	55.0	52.1	51.7	3.3
		D　データの活用	63.4	61.8	61.8	1.6
	評価の観点	知識・技能	75.3	72.9	72.8	2.5
		思考・判断・表現	52.6	50.8	51.4	1.2
		主体的に学習に取り組む態度				
	問題形式	選択式	77.4	75.3	75.3	2.1
		短答式	64.5	62.1	62.0	2.5
		記述式	51.9	50.0	51.0	0.9

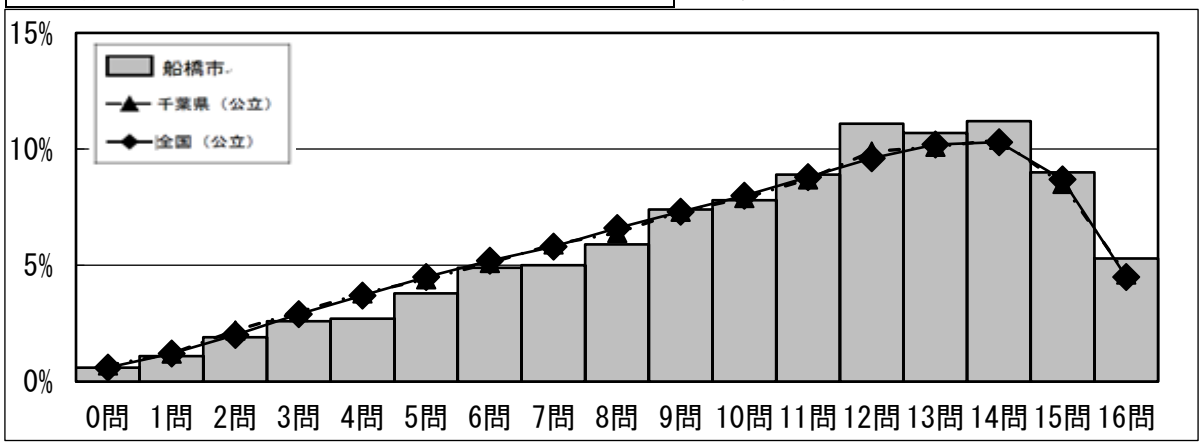
※斜線は該当する設問が無いもの

　　平均正答率が全国，千葉県共に上回ったもの



※全国を100として船橋市と千葉県の比較を百分率で表したグラフ
※今年度、該当する設問がなかったものについてのグラフは省略。

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)　〔算数〕



傾　向

・全体としては、全ての領域、観点、形式において全国・県の平均正答率を上回った。学習指導要領の領域における「図形」、問題形式における「記述式」に関してはやや課題がある。
・無回答率については、全国とほぼ同等であった。
・正答数の分布は、全国・県とほぼ同様に正答数の高い側に寄った分布を示している。最頻値および中央値については全国・県と同様であった。中央値については全国と同様であったが、第１四分位数及び第３四分位数は全国・県より１問高かった。また正答率の散らばりに関する値は全国・県と同様であった。

課題が見られた主な設問

２（１）「計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるか」
＜数と計算＞　（正答率　船橋市 55.5 全国 56.9）

３（３）「球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるか」
＜図形＞　（正答率　船橋市 36.5 全国 36.5）

学習指導のポイント

＜計算に関して成り立つ性質を活用して、計算を工夫できるようにする指導の充実＞

課題が見られた２（１）では、計算の答えはあっているものの、求め方を説明するにあたり、説明が足りないことによる誤答が目立った。

計算に関して成り立つ性質を活用して、計算を工夫できるようにする指導に当たっては、答えの求め方について、筋道を立てて説明する場面を取り入れることが大切である。

＜図形を構成する要素を見いだし、それらを活用して体積を求めることができるようにする指導の充実＞

３（３）では体積を求めるのに必要な情報を読み取れていない誤答が目立った。

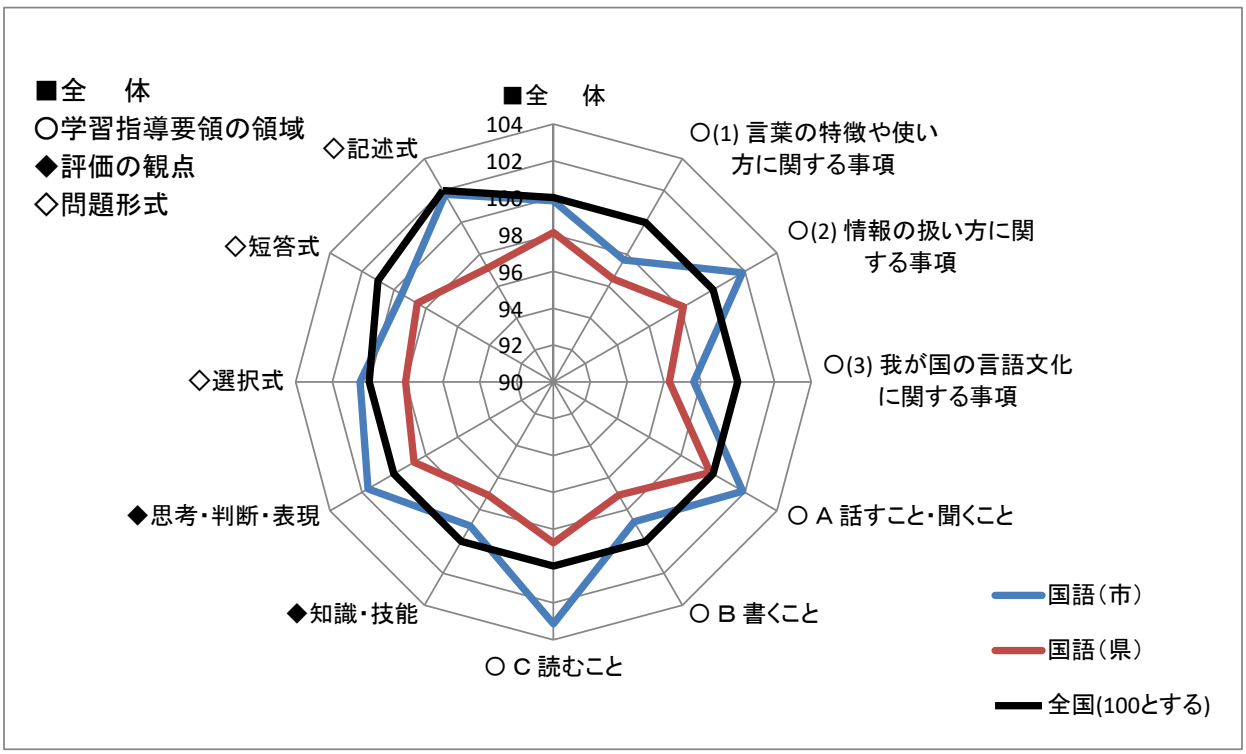
体積の指導に当たっては、身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素を見いだし、体積を求めるために必要な情報を判断できるようにすることが重要である。

≪中学校≫　国語　　※全国，千葉県，船橋市，共に公立学校

国語			船橋市	千葉県	全国	全国との差
平均正答率（%）	全　体		58	57	58.1	▲ 0.1
	学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	57.8	57.1	59.2	▲ 1.4
			(2) 情報の扱い方に関する事項	60.7	58.5	59.6	1.1
			(3) 我が国の言語文化に関する事項	73.8	72.8	75.6	▲ 1.8
		思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	59.9	58.7	58.8	1.1
			B　書くこと	64.5	63.4	65.3	▲ 0.8
			C　読むこと	49.4	47.3	47.9	1.5
	評価の観点		知識・技能	61.4	60.2	62.0	▲ 0.6
			思考・判断・表現	56.3	54.7	55.4	0.9
			主体的に学習に取り組む態度				
	問題形式		選択式	61.3	59.8	61.0	0.3
			短答式	61.5	60.9	61.8	▲ 0.3
			記述式	46.3	44.2	45.5	0.8

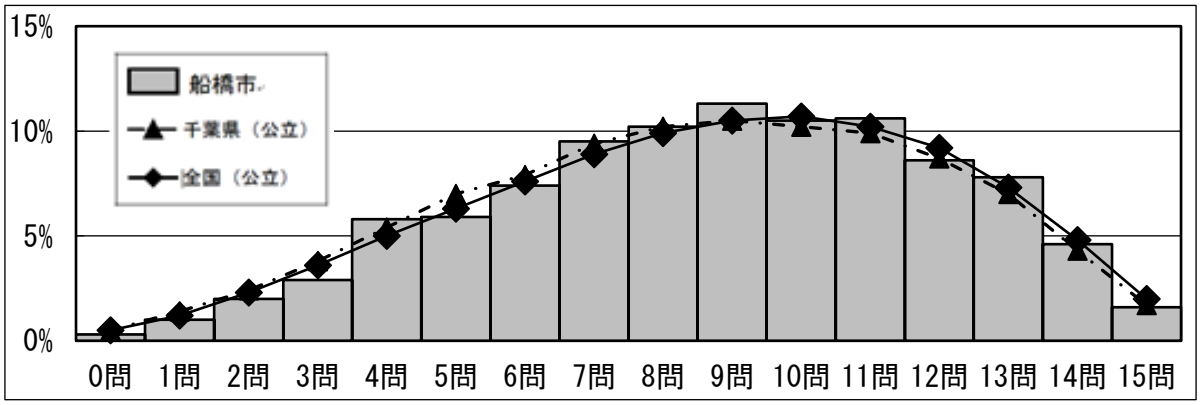
※斜線は該当する設問が無いもの

　　平均正答率が全国，千葉県共に上回ったもの



※全国を 100 として船橋市と千葉県の比較を百分率で表したグラフ
※今年度、該当する設問がなかったものについてのグラフは省略。

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)　〔国語〕



傾　向

・平均正答数は全国と同等で、県と比較すると若干高かった。学習指導要領の内容別では、「情報の扱い方に関する事項」に関しては若干高いが、「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」にやや課題がある。
・無解答率については、全体の８０％の設問で全国平均率を上回り、「短答式」「記述式」回答の設問で多かった。
・正答数の分布は、全国・県とほぼ同様の分布を示している。中央値についても、全国・県の値と同様であった。最頻値については、全国の値より１問少なく、県の値と同様である。正答率の散らばりに関する値は、全国・県の値と比較して0.1ポイント少なかった。

課題が見られた主な設問

２四「目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるか」
＜読むこと＞　（正答率　船橋市 43.7 全国 42.6）
３四「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるか」　＜書くこと＞（正答率　船橋市 48.2 全国 49.3）
４一「短歌に用いられている表現の技法について理解しているか」
＜言葉の特徴や使い方に関する事項＞（正答率　船橋市 49.8 全国 54.9）

学習指導のポイント

＜目的に応じて必要な情報に着目して要約する指導の充実＞

文章を読んで内容を理解したり、理解したことを伝えたりするには、目的に応じて必要な情報に着目して要約することが必要である。概略を理解するために文章全体の内容を短くまとめたり、情報を他者に伝えるために必要な部分を取り出してまとめたりするなど、その目的や必要に応じて、内容や分量、方法が異なるということを理解し、適切に要約することができるように指導することが大切である。要約した文章を読み合い、目的に沿っているかを検討したり、必要な情報を適切に取り上げることができているかを確かめたりすることが効果的である。

＜自分の考えが伝わる文章になるように、効果を考えて描写を工夫して書く指導の充実＞

自分の考えがよく伝わる文章を書くには、表現の効果を考えて描写するなど、工夫して書くことが大切である。そのためには、用いる語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えながら書き進めたり、伝えたいことが読み手に伝わるかを確かめて推敲したりすることができるように指導することが大切である。書いた文章を読み合って、書き手の意図と読み手の受け止め方がかみ合っているかを確かめるなど、読み手の立場に立って考えることができるようにすることが効果的である。

＜表現の技法について理解し、活用できるようにする指導の充実＞

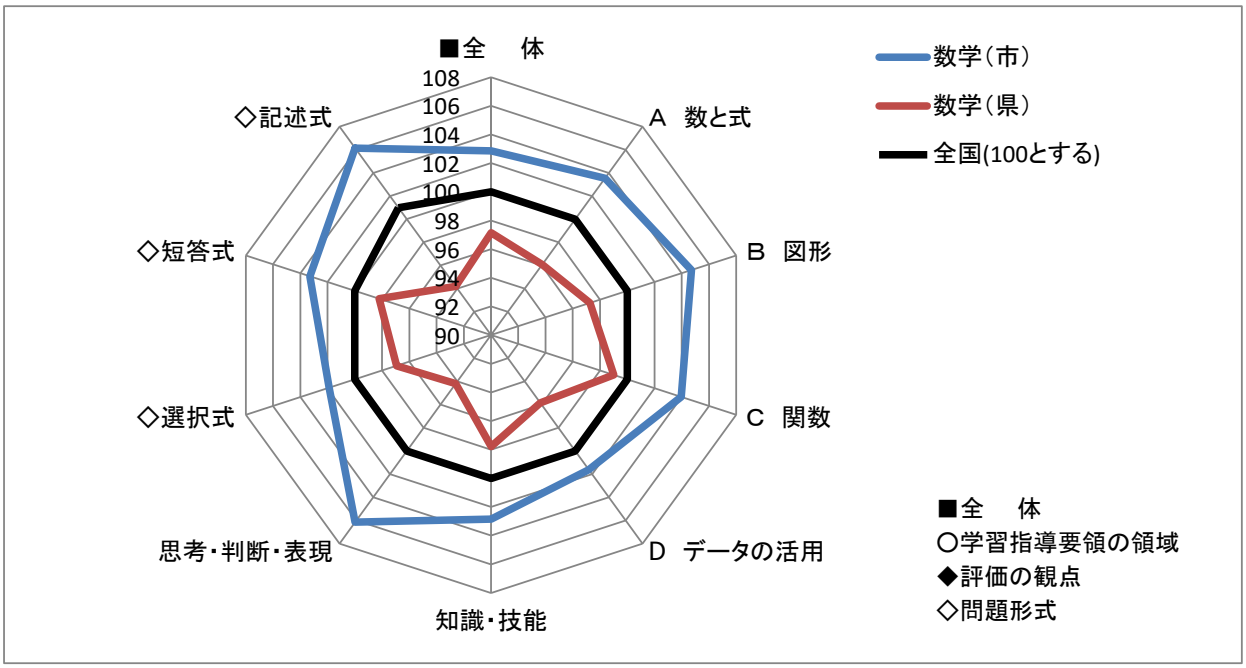
表現の技法について理解したことを、文章を読んだり、自分の考えを伝えたりする場面で活用できるようにすることが大切である。そのためには、表現が工夫されている文章や詩歌などを取り上げ、用いられている表現の技法に着目し、その名称などを確かめた上で、その効果について考えたり自分の表現に生かしたりするなど、知識と活用場面が結び付くように指導することが効果的である。

≪中学校≫　数学　　※全国，千葉県，船橋市，共に公立学校

数　学			船橋市	千葉県	全国	全国との差
平均正答率（%）	全　体		54	51	52.5	1.5
	学習指導要領の領域	A　数と式	52.9	49.1	51.1	1.8
		B　図形	42.2	39.2	40.3	1.9
		C　関数	63.1	60.1	60.7	2.4
		D　データの活用	56.4	53.2	55.5	0.9
	評価の観点	知識・技能	64.9	61.7	63.1	1.8
		思考・判断・表現	31.1	27.6	29.3	1.8
		主体的に学習に取り組む態度				
	問題形式	選択式	59.6	56.7	58.5	1.1
		短答式	69.2	65.8	67.0	2.2
		記述式	31.1	27.6	29.3	1.8

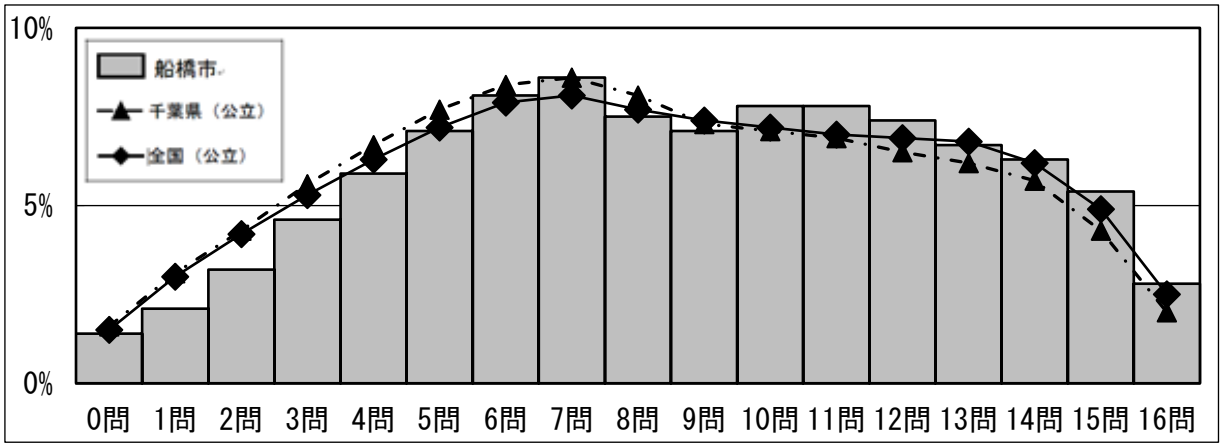
※斜線は該当する設問が無いもの

　　平均正答率が全国，千葉県共に上回ったもの



※全国を100として船橋市と千葉県の比較を百分率で表したグラフ
※今年度、該当する設問がなかったものについてのグラフは省略。

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)　〔数学〕



傾　向

・全体としては、全国・県の平均正答率と比べると、全ての領域・観点・形式で上回った結果であった。学習指導要領の領域における「図形」に関してはやや課題がある。
・無解答率は、全国とほぼ同等であった。
・正答数の分布は、全国・県とほぼ同様の分布を示している。中央値は全国・県の値より１ポイント高い。また、正答率の高い生徒の分布は全国よりも若干高い傾向にあり、第１四分位数において全国・県よりも１問高かった。散らばりを示す値は、全国・県と同様であった。

課題が見られた主な設問

８（２）「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるか」　＜関数＞（正答率　船橋市 19.5 全国 17.1）

７（２）「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるか」　＜データの活用＞（正答率　船橋市 25.7 全国 25.9）

９（１）「筋道を立てて考え、証明することができるか」　＜図形＞（正答率　船橋市 28.3 全国 25.8）

学習指導のポイント

＜事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実＞

具体的な場面における問題を表、式、グラフを用いて解決できるようにするために、問題解決の構想を立てたり、問題解決の過程や結果を振り返ったりする活動を取り入れることが大切である。その際、表、式、グラフを活用し、数学的な表現を用いて問題解決の方法を説明できるように指導することが大切である。

＜データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を説明する活動の充実＞

データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明できるようにすることが大切である。その際、判断の理由を箱ひげ図の箱の位置や四分位数などを根拠として説明できるようにすることが大切である。

＜筋道を立てて考え、証明する活動の充実＞

事柄が成り立つことを証明できるようにするためには、証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。

（２）設問別の状況

①平均正答率が全国と比べ高い主な設問（「差」は、本市と国との平均正答率の差）

≪小学校≫

教科名	設問番号	設 問 の 概 要	差
国語	１三	オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものとして、適切なものを選択する	2.7
国語	３二（１）	「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話すか迷っていると考えられるところとして、適切なものを選択する	2.5
国語	１二（１）	オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する	1.6
国語	２一（２）	【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものとして、適切なものを選択する	1.6
国語	１一	学校の取り組みを紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	1.4

教科名	設問番号	設 問 の 概 要	差
算数	４（４）	家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く	6.1
算数	１（１）	問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ	5.5
算数	４（１）	５４０÷０．６を計算する	5.0
算数	２（２）	除数が１／１０になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ	3.5
算数	５（４）	示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く	3.4
算数	４（３）	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	2.4
算数	５（２）	示されたデータから、１９６０年代のＣ市について、開花日が３月だった年と４月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く	1.9
算数	４（２）	３分間で１８０m歩くことを基に、１８００mを歩くのにかかる時間を書く	1.4

≪中学校≫

教科名	設問番号	設 問 の 概 要	差
国語	２一	本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する	2.8
国語	２三	本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する	2.4
国語	１四	話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く	2.3
国語	３二	物語の下書きについて、文の中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選択する	1.9
国語	２二	本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する	1.7

教科名	設問番号	設 問 の 概 要	差
数学	５	２枚の１０円硬貨を同時に投げるとき、２枚とも裏が出る確率を求める	3.8
数学	１	ｎを整数とするとき、連続する二つの偶数を、それぞれｎを用いた式で表す	3.3
数学	８（３）	結衣さんがかいたグラフから、１８Ｌの灯油を使い切るような「強」と「弱」のストーブの設定の組み合わせとその使用時間を書く	3.2
数学	３	正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選ぶ	2.6
数学	９（１）	点Ｃを線分ＡＢ上にとり、線分ＡＢについて同じ側に正三角形ＰＡＣとＱＣＢをつくるとき、ＡＱ＝ＰＢであることを、三角形の合同を基にして証明する	2.5
数学	８（２）	１８Ｌの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する	2.4
数学	６（２）	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の２倍になることの説明を完成する	2.3

②平均正答率が全国に比べ低い主な設問（「差」は、本市と国との平均正答率の差）

≪小学校≫

教科名	設問番号	設 問 の 概 要	差
国語	３一	【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する	▲ 5.0
国語	２三ア	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す（きょうぎ）	▲ 4.1
国語	３三	【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く	▲ 4.1
国語	２二	【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く	▲ 2.2

教科名	設問番号	設 問 の 概 要	差
算数	２（１）	３５０×２＝７００であることを基に、３５０×１６の積の求め方と答えを書く	▲ 1.4

≪中学校≫

教科名	設問番号	設 問 の 概 要	差
国語	４一	短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する	▲ 5.1
国語	４三	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	▲ 1.8
国語	３四	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する	▲ 1.1
国語	３三	漢字を書く（みちたりた）	▲ 1.0

教科名	設問番号	設 問 の 概 要	差
数学	７（３）	車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ	▲ 1.1
数学	７（２）	車型ロボットについて「速さが段階１から段階５まで、だんだん速くなるにつれて、１０ｃｍの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、５つの箱ひげ図を比較して説明する	▲ 0.2

３　質問調査の結果について

※調査結果について、「１：している」や「１：当てはまる」等の最も肯定的な回答を選択した割合で比較している。

（１）児童生徒質問調査

①調査結果〔学習意欲、学習方法、学習環境等についての調査項目〕

≪小学校≫

◇全国に比べ該当する児童の割合が高い項目◇

・５年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか　「毎日」（船橋市32.7　全国25.3）【＋7.4ポイント】

・５年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか

（６）友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる

「とてもそう思う」（船橋市52.4　全国44.6）【＋7.8ポイント】

（２）分からないことがあった時に、すぐ調べることができる

「とてもそう思う」（船橋市65.1　全国58.4）【＋6.7ポイント】

（５）自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる

「とてもそう思う」（船橋市38.0　全国33.3）【＋4.7ポイント】

◆全国に比べ該当する児童の割合が低い項目◆

・国語の解答時間は十分でしたか（４５分）

「時間が余った」（船橋市27.8　全国32.9）【－5.1ポイント】

・あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）　「０～１０冊」　（船橋市10.2　全国14.6）【－4.4ポイント】

≪中学校≫

◇全国に比べ該当する生徒の割合が高い項目◇

・１、２年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか　「毎日」（船橋市34.0　全国31.0）【＋3.0ポイント】

・１、２年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか

（２）分からないことがあった時に、すぐ調べることができる

「とてもそう思う」（船橋市66.5　全国62.8）【＋3.7ポイント】

（６）友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる

「とてもそう思う」（船橋市44.0　全国41.0）【＋3.0ポイント】

◆全国に比べ該当する生徒の割合が低い項目◆

・あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）　「０～１０冊」　（船橋市13.2　全国18.0）【－4.8ポイント】

・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか　「当てはまる」　（船橋市35.7 全国40.0）【－4.3ポイント】

②調査結果〔生活の諸側面、学校生活等についての調査項目〕

≪小学校≫

◇全国に比べ該当する児童の割合が高い項目◇

塾や家庭教師含む

・学校の授業時間以外に、月曜日から金曜日に、１日当たりどれくらいの時間､勉強をしますか　３時間以上(船橋市14.3 全国11.0)【＋3.3ﾎﾟｲﾝﾄ】

・学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか　４時間以上（船橋市 9.5　全国 7.3)【＋2.2ﾎﾟｲﾝﾄ】

・携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか　（船橋市42.5　全国39.4）【＋3.1ﾎﾟｲﾝﾄ】

・自分には、よいところがあると思いますか　（船橋市45.8　全国43.4）【＋2.4ﾎﾟｲﾝﾄ】

◆全国に比べ該当する児童の割合が低い項目◆

・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか　（船橋市25.9　全国30.2）【－4.3ﾎﾟｲﾝﾄ】

・授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか　（船橋市33.4　全国35.9）【－2.5ﾎﾟｲﾝﾄ】

・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか　（船橋市34.4　全国36.8）【－2.4ﾎﾟｲﾝﾄ】

≪中学校≫

◇全国に比べ該当する生徒の割合が高い項目◇

塾や家庭教師含む

・学校の授業時間以外に、月曜日から金曜日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか ３時間以上（船橋市11.7　全国9.2）【＋2.5ﾎﾟｲﾝﾄ】

・学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか　４時間以上 （船橋市7.2　　全国5.7）【＋1.5ﾎﾟｲﾝﾄ】

・携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか　（船橋市37.2　全国34.0）【＋3.2ﾎﾟｲﾝﾄ】

・ 学校に行くのは楽しいと思いますか（船橋市45.2 全国43.5)【＋1.7ﾎﾟｲﾝﾄ】

◆全国に比べ該当する生徒の割合が低い項目◆

・人が困っているときは、進んで助けていますか　（船橋市33.8　全国38.3）【－4.5ﾎﾟｲﾝﾄ】

・授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか（船橋市24.0　全国27.5)【－3.5ﾎﾟｲﾝﾄ】

・毎日、同じくらいの時刻に起きていますか　（船橋市51.9　全国55.3）【－3.4ﾎﾟｲﾝﾄ】

・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか　（船橋市23.1　全国26.4）【－3.3ﾎﾟｲﾝﾄ】

③考察

学習に対する興味・関心・理解度等の項目に関して、小学校では「国語の問題で解答を文章で書く問題や、算数の言葉や数、式を使ってわけや求め方を書く問題で、最後まで解答を書こうと努力した」「算数の勉強は大切だと思う」「英語の勉強は大切だと思う」「国語の勉強は大切だと思う」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思う」と答えた児童の割合が他の項目に比べて高かった。中学校では、「国語の問題で解答を文章で書く問題では、最後まで解答を書こうと努力した」「国語の勉強は大切だと思う」と答えた生徒の割合が他の項目に比べて高かった。その一方で、小学校では「国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理している」「５年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている」、中学校では「数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている」「１、２年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と答えた児童生徒の割合が他の項目に比べて低い調査結果であった。学習に対する児童生徒側の意欲は高いので、授業者側の場面設定の工夫など、今後もアウトプットすることに関して授業改善を行うことでより一層の学力向上が図れるものと考えられる。

ICT機器の活用に関して、小学校、中学校ともに授業中の活用が大いに進んでおり、全国平均を上回る結果となっている。小学校、中学校ともに、特に「分からないことがあったときに、すぐ調べることができる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」「画像や動画、音声等を活用することで学習内容がよく分かる」の肯定的回答率が高く、学習へのICT機器の有用性を感じている児童生徒の割合が高かった。電子黒板や１人１台端末等のICT機器のさらなる効果的な活用に向けて実践を重ねていくことが重要である。

基本的な生活習慣や学校生活等の項目に関して、小学校、中学校に共通して「朝食を毎日食べている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」「友達関係に満足している」と答えた児童生徒の割合が高かった。一方で、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」の回答で肯定的な回答を選択しなかった割合が、小学校で４．４％、中学校で４．４％となっており、いじめ防止対策に向けた道徳教育の充実や児童・生徒による自主活動などの積極的な生徒指導の視点を持った、組織的かつ継続的な対応をさらに重視すべきである。

また、小学校、中学校ともに、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と答えた児童生徒の割合が非常に低く、学校質問調査においても「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった」と回答した割合が低い。学校と地域や児童生徒・保護者が関わる取組を各学校の実態に合わせながら積極的に考えていく必要がある。

（２）学校質問調査

※調査結果について、「１：している」や「１：当てはまる」等の最も肯定的な回答を選択した学校の割合で比較している。

①調査結果

≪小学校≫

◇全国と比べ肯定的な回答をした学校の割合が高い項目◇

・調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか
「ほぼ毎日」【＋21.9ポイント】

・児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。
（２）希望する不登校児童に対する授業配信　「ほぼ毎日」【＋20.7ポイント】
（４）外国人児童に対する学習活動等の支援　「ほぼ毎日」【＋19.5ポイント】

・調査対象学年の児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか　「ほぼ毎日」【＋18.5ポイント】

・前年度に、教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を１クラス当たりどの程度行いましたか
「ほぼ毎日」【＋18.5ポイント】

・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童が相談したい時に相談できる体制となっていますか
「そう思う」【＋15.1ポイント】

◆全国と比べ肯定的な回答をした学校の割合が低い項目◆

・各児童の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしていますか　「そう思う」【－15.5ポイント】

・調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか　「そう思う」【－15.3ポイント】

・前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか　「よく行った」【－13.3ポイント】

・児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか
「よくしている」【－12.3ポイント】

・指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか　「よくしている」【－9.9ポイント】

≪中学校≫

◇全国と比べ肯定的な回答をした学校の割合が高い項目◇

・前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか
「週に１回程度、または、それ以上」【＋37.9ポイント】

・調査対象学年の生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか　「ほぼ毎日」【＋27.5ポイント】

・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。
（２）希望する不登校生徒に対する授業配信　「ほぼ毎日」【＋25.1ポイント】

・調査対象学年の生徒に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか　「よくしている」【＋23.2ポイント】

・調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか　「そう思う」【＋22.9ポイント】

・個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）　「よくしている」【＋18.0ポイント】

◆全国と比べ肯定的な回答をした学校の割合が低い項目◆

・調査対象学年の生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか
「よくしている」【－26.2ポイント】

・教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか　「よく活用している」【－15.0ポイント】

・調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか
「よく行った」【－13.5ポイント】

・前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか
「よく行った」【－13.3ポイント】

・指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか　「よくしている」【－12.9ポイント】

②考察

ICT 機器の活用に関して、小・中学校ともに、「教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）の ICT 機器を活用した授業を、どの程度行ったか」の質問に対して、「ほぼ毎日」と回答した学校が約９割であり、授業者側の利活用が進んでいる実態が見られる。学習者側の利活用については、「児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しているか」の質問に対して、小・中学校の全ての学校において、「ほぼ毎日」もしくは「週３回以上」と回答しており、全国平均を大きく上回っている。また、中学校では「PC・タブレットなどの ICT 機器について、『希望する不登校生徒に対する授業配信』への活用の程度」を回答する質問に対して「ほぼ毎日」もしくは「週３回以上」を回答している学校が７割であり全国平均を上回っている。不登校児童生徒に対して、授業配信を含む学習活動支援に活用している学校は、小学校で７割、中学校で８割を数え、様々な場面での活用が進んでいる。

一方で、小中学校の連携については多くの課題が見られた。「調査対象学年の児童・生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思うか」の質問に対して、中学校では、「そう思う」が８割、残り２割が「どちらかといえばそう思う」と回答している状態に対して、小学校では「そう思う」が２割、「どちらかといえばそう思う」が６割、「どちらかといえばそう思わない」が２割であった。また、「各児童・生徒の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしているか」の質問に対して、中学校では全国平均の値と同様の８割が「そう思う」と回答しているのに対して、小学校では全国平均の値に比べて、マイナス１５ポイントとなっている。「前年度までに、近隣等の小中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか」の質問に対する肯定的回答も低いことから、小学校では教科担任制を積極的に取り入れる等、自校の学校内での情報交換を活発に行うとともに、中学校区の小中学校が連携し、小中合同の研修会を開催したり、教科の系統性などを考えた研究授業の相互参観などに取り組んだりと、小中学校間の連携をより密にする工夫を図る必要があると考えられる。

学校と地域や保護者の連携については、「指導計画の作成に当たって、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせているか」の質問に対して、「そう思う」の回答が小・中学校ともに全国平均の値よりも低い。中学校のみの質問である「調査対象学年の生徒に対して、前年度に、職場体験活動を何日程度行ったか」に対して、「実施なし」が８割であったことを踏まえ、中長期的に効果的な指導計画の作成が重要であると考えられる。

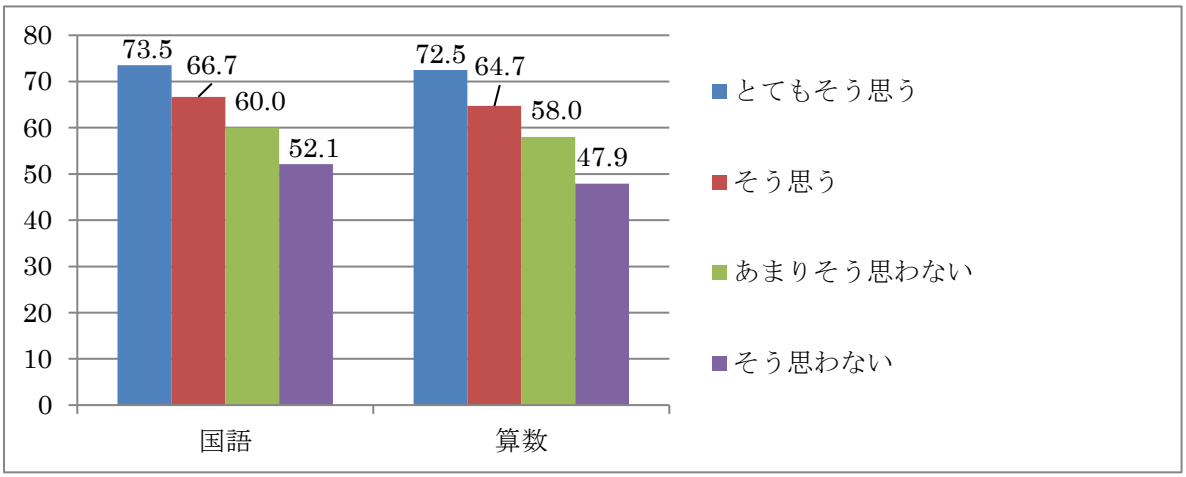
最後に、小・中学校ともに「令和５年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用したか」に対して肯定的回答が９割を超えていた。今後も、本学力調査の分析および、各学校の実態に合わせた授業改善・指導力向上への指導・助言を行い、児童・生徒が主体的に取り組む学習活動の充実が図れるよう各学校を支援していきたい。

（３）児童生徒質問調査と学力調査の平均正答率における相関関係

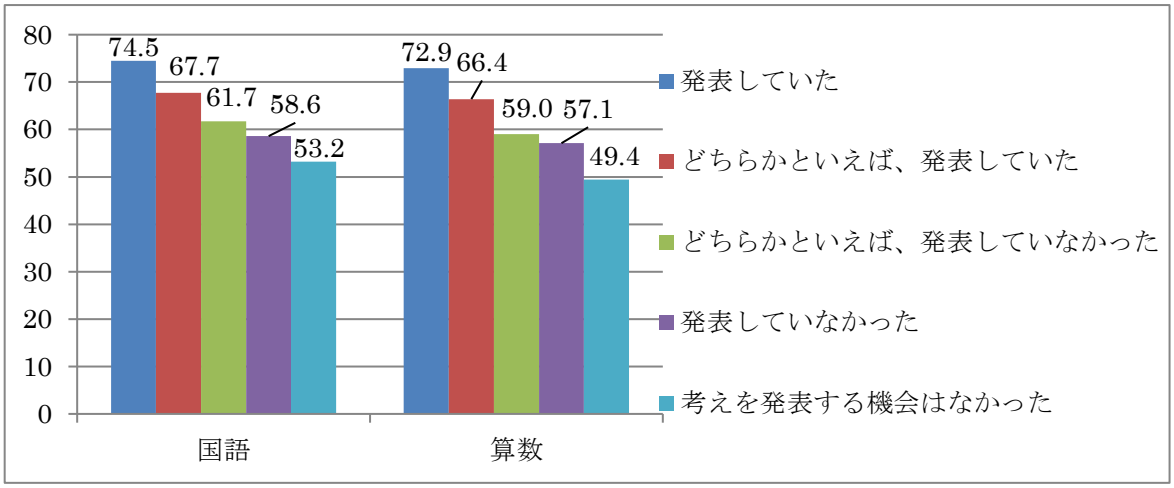
グラフの数値は、児童生徒が回答した選択肢別の平均正答率を表す。特に、以下の質問に対して肯定的な回答をした児童生徒は平均正答率が高い傾向にある。

≪小学校で相関の高い項目≫※順番は相関関係の高い順になっている

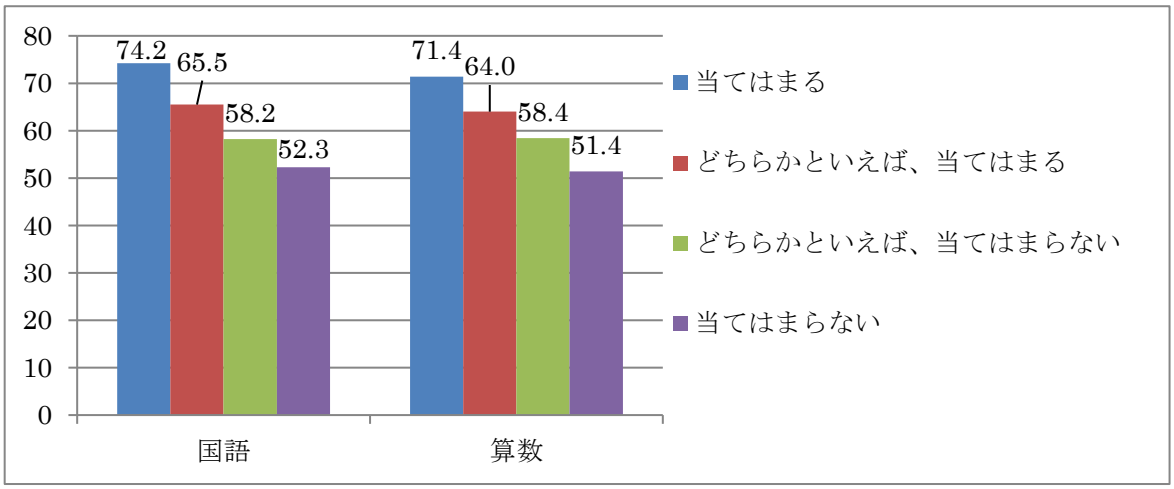
① ５年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか？



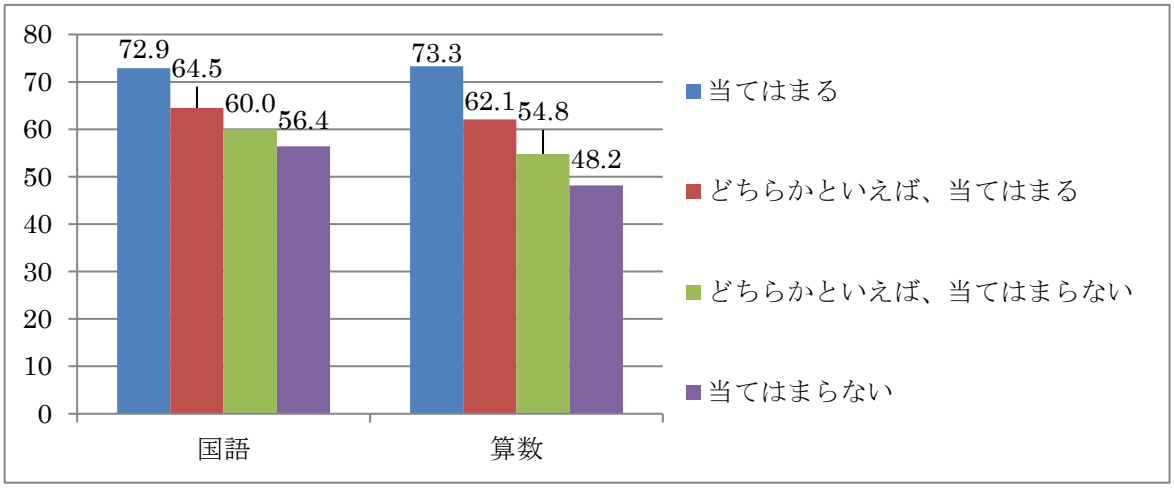
② ５年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか？



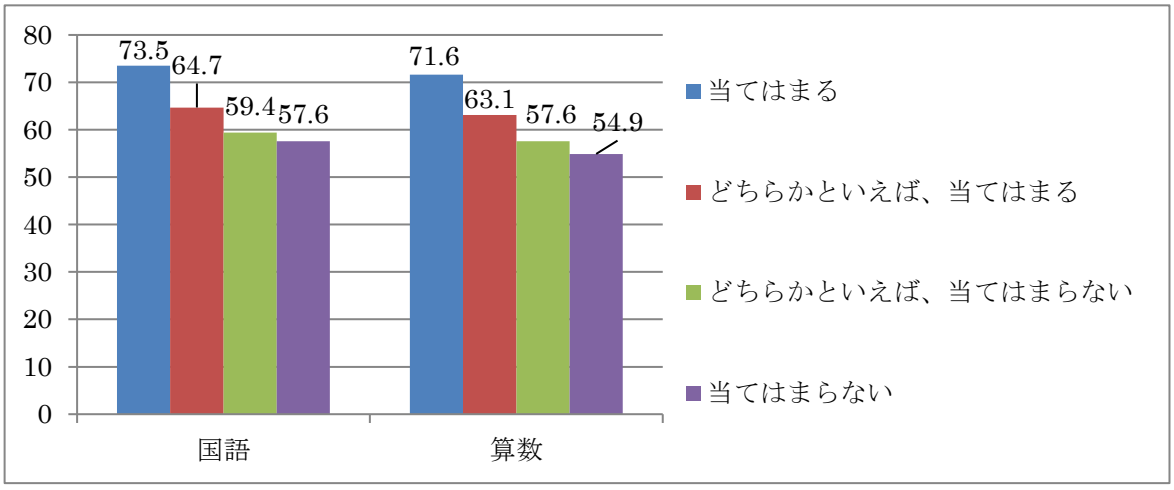
③ 国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか？



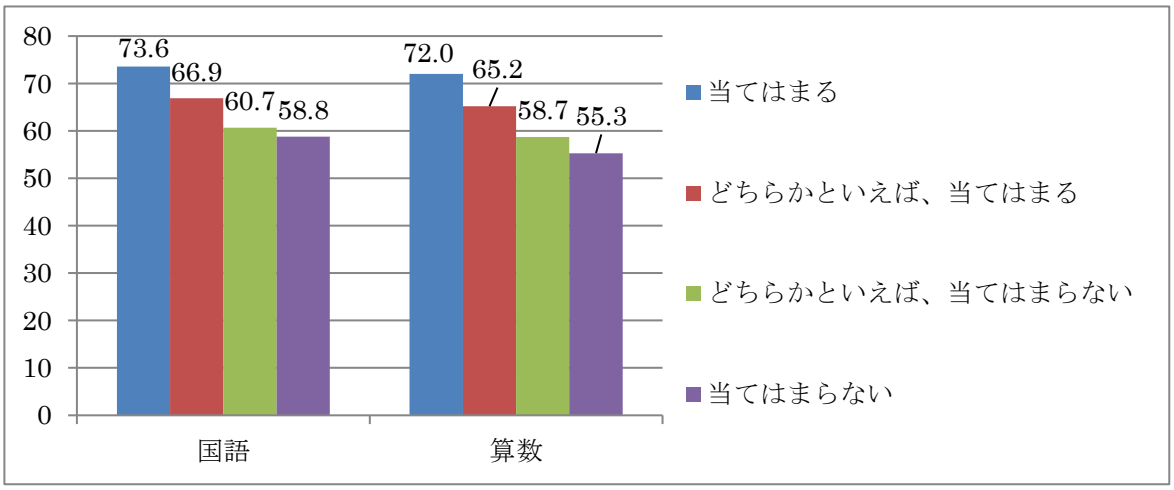
④ 算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか？



⑤ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか？

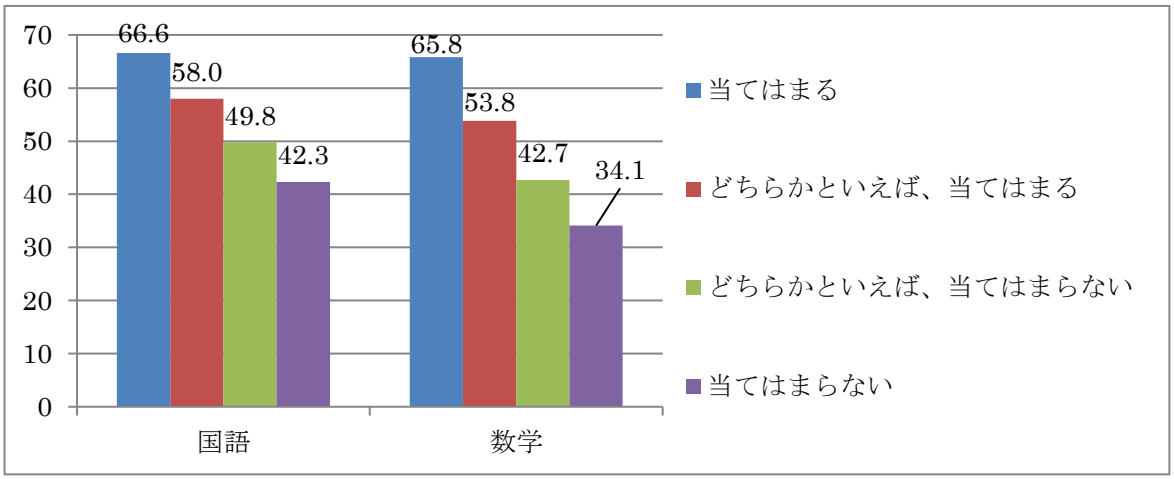


⑥ ５年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか？

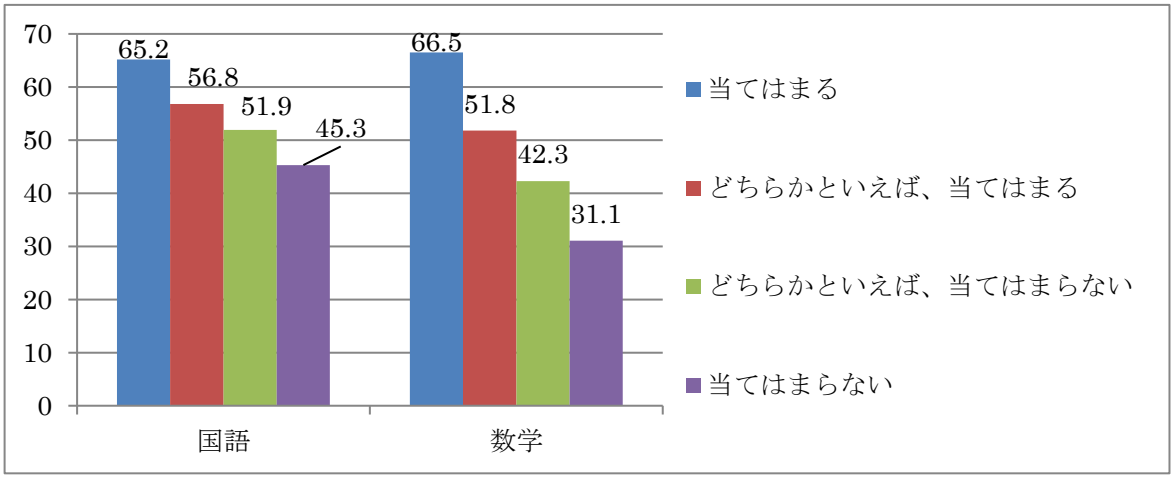


≪中学校で相関の高い項目≫※順番は相関関係の高い順になっている

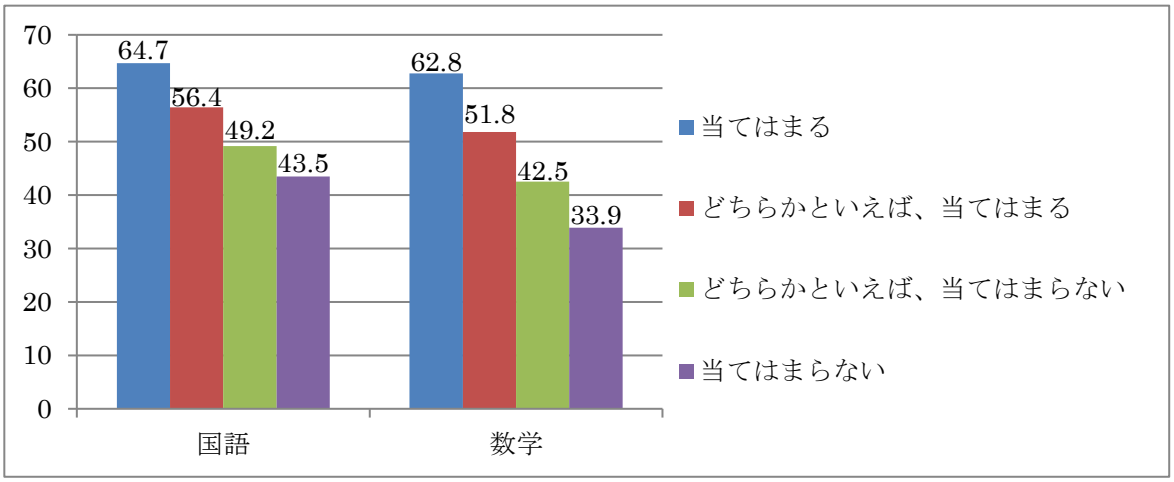
① 1,2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか？



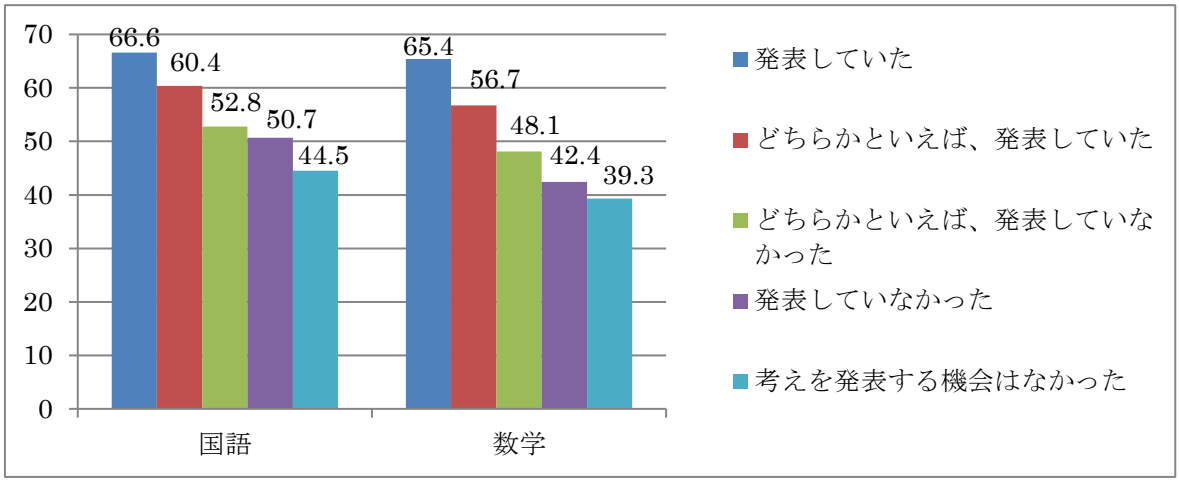
② 数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか？



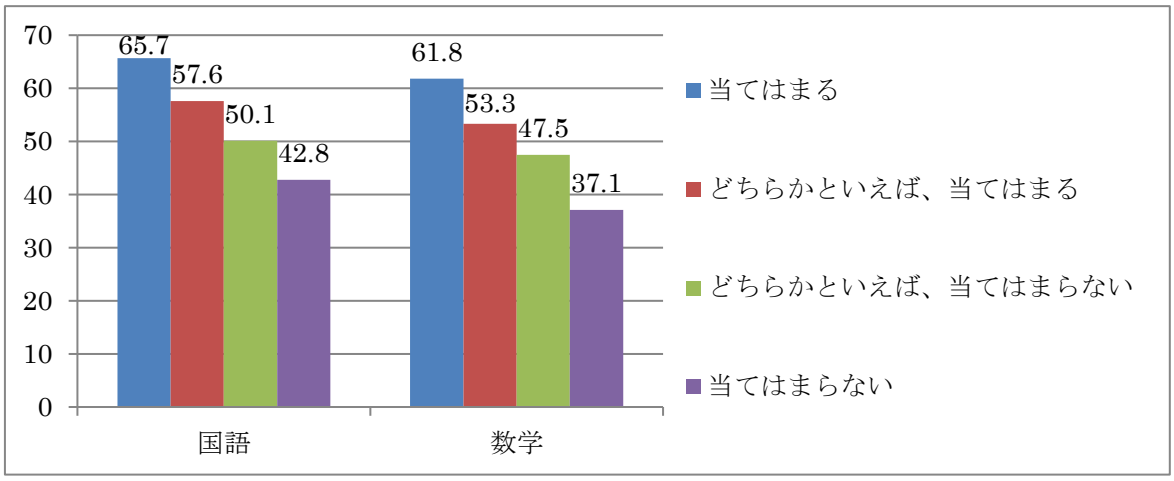
③1,2年生のときに受けた授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか？



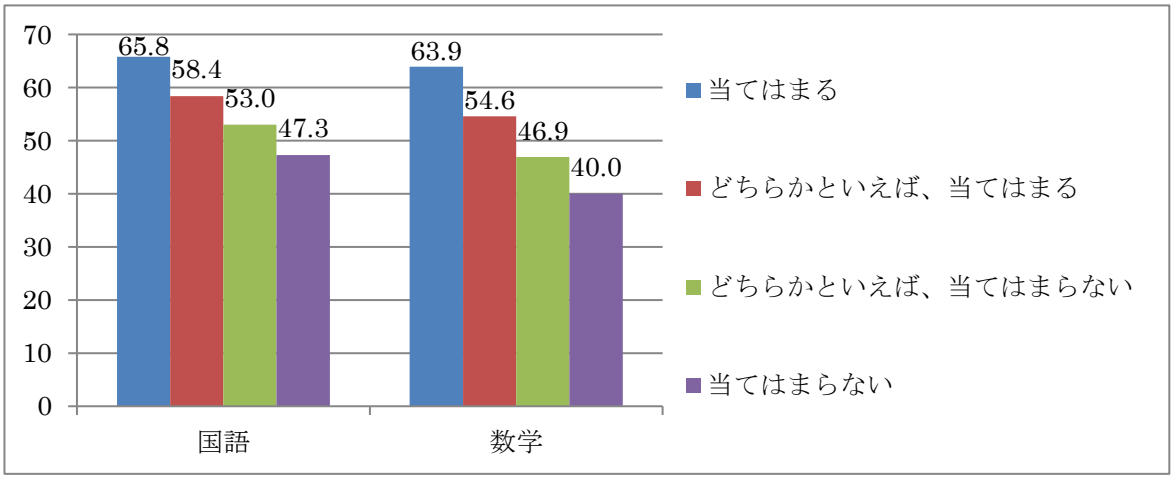
④ 1,2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか？



⑤ 国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈していますか？



⑥ 1,2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか？



＜考察＞

小・中学校ともに、知識の意味を考えることや知識・技能を使うこと、発表などの場面において言葉で表したり、表現を工夫したりすること、粘り強く考えることなど、育成を目指す資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）に関わる部分との相関が強く見られた。今後も振り返りの視点をもとに、児童生徒が何を理解して何ができるようになったかを認識させながら、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図ることが求められる。

４　調査結果の今後の活用について

（１）学校は、調査結果をもとに、自校の学力・学習状況を分析する。自校の分析結果から、課題となる学力や学習状況を明確にし、授業研究や授業での具体的な方策（言語活動の充実、文章表現による記述等）を取り入れるなど指導法の改善を図る。更に家庭に情報提供し、自校の児童生徒の学力向上に努める。

（２）教育委員会は、県・全国の平均正答率や質問調査の回答状況と比較し、分析することで施策の立案や改善を図る。

５　留意事項

調査結果については、測定できるのは学力の一部分であることを踏まえ、序列化や過度な競争につながらないよう十分配慮する。

※船橋市内個々の学校名を明らかにした平均正答率の公表は行わない。